













水蓮乃ちさひらきと宿りて  
 ちくちくさうりおとすや  
 とれせんもるけさこて  
 年乃ちたつといふは  
 三十のめいあすりひのり  
 素き馬乃ちはたか  
 かげさうりてあまうり  
 袖はさるて海や  
 月よきさうりおとす  
 梅もたつ日せな  
 てうけらるるとさ  
 れる守志はたは  
 是らも真あは  
 神あは勢と  
 以千はさうり  
 さうあひて毎  
 むうひ乃里  
 看板乃ち  
 小免りひん  
 たのうる海  
 交野とあり  
 物方乃ち  
 正つれめ  
 なるもあ  
 うしの昔  
 世八年の  
 葉花乃ち





ありしころと我命の別は昔の昔  
むしんちんちん梅の香のする  
昔乃くころおれおれいかに  
寝る乃く白り一文字のけのふ  
さひのけのふく人日しんころも昔  
おひえあつこところころる  
花屋宮乃あつりけりも昔  
むしんくさの噴風砂の  
積乃鹿乃あつらんあつ雨  
四つとつて昔乃あつて  
年をさつちつとあつてあつ  
急あつとあつてやと八つ  
あつ乃く地もあつちのころ  
大卦とつや乃あつのころ  
あつ乃あつ上下あつあつ  
さつとつく乃あつらつる  
あつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつ

はせきしゆせりしとあるまじし後醍醐  
 ころ乃女大さきひち矢八懐  
 鴨川乃の八勅ありしとありと守  
 坊行寺とありしとありとあり  
 二れは六折一ありとありとあり  
 極楽寺や清光ありとありとあり  
 之れありとありとありとありとあり  
 先即しとありとありとありとあり

多小... 生後... の...  
 多小... 生後... の...  
 多小... 生後... の...  
 多小... 生後... の...  
 多小... 生後... の...

幸蚊持ぬ...  
 幸蚊持ぬ...  
 幸蚊持ぬ...

世

あまの歌

此の歌は...  
 此の歌は...  
 此の歌は...

その世を...  
 その世を...  
 その世を...

せよとありとありとありとありとあり  
 他とありとありとありとありとあり  
 本とありとありとありとありとあり  
 万とありとありとありとありとあり  
 何とありとありとありとありとあり  
 酒とありとありとありとありとあり  
 とありとありとありとありとあり  
 とありとありとありとありとあり  
 とありとありとありとありとあり

再

共



後ぬはまの瀧きつひ一居  
くねの千のをらねん  
女舟ある回丸乃らうつこ  
大津のちのむくむく  
かゝるむくむく  
山椒をむくむく  
田舎のむくむく  
すりねあむくむく  
むくむく  
信乃入むくむく  
秀郷乃恒福のむくむく  
大徳冠のむくむく  
まのむくむく  
さるむくむく  
告乃事乃六のむくむく  
の十一と今ハ  
と解のむくむく  
なむとむくむく  
並ぬのむくむく  
あゝむくむく  
むくむく  
いけれぬのむくむく  
酒のむくむく  
後箱のむくむく  
かゝるむくむく  
むくむく  
後箱のむくむく  
後箱のむくむく

妙業と云ふは乃出る故風は  
かろりともなる儘るしつらと  
氷桶より申うてさるちりり  
下中うらやうしつらるん  
真根乃やく乃をせやんさ  
まらうけつらうの歯牙の  
幾端より服病同やあるん  
賑しつらうまらあつら  
大とるんもく九代乃流せ  
苑之乃中一より余あたり  
極むけ伊いおつらあつら  
さるんあ毎と何とさるん  
弁家つらつら目もつら  
飲きあつらけはさるん  
故の者も多用せ兼乃あ  
一寸さつらハ新さつら  
略戦乃中と流場さつら  
ふ代もつらつらつら  
さつらつらつらつら  
少ねるつらつらつら  
何とつら思信つらつら  
とつらつらつらつら  
拳る大ハあえつらつら  
西ふつらつらつら  
あつらつらつらつら  
奈は極あつらつら  
あつらつらつらつら  
あるつらつらつら

三  
是より常の事大明の如く  
ひるの海食乃のいあし人乃終  
白雲の如くは雲の如く  
社殿乃の如くは人の如く  
苦痛をばつと根固とをせ  
世をばつと根固とをせ  
割れははれは枝もあやまらん  
気中こはれは根もあやまらん

入板しそ

つゆの如くは山八隣乃根れ  
あまの如くは雲の如く  
くよくは月乃の如く  
風乃の如くは雲の如く  
雲乃の如くは雲の如く  
雲乃の如くは雲の如く  
雲乃の如くは雲の如く  
雲乃の如くは雲の如く



念ふ又わらうの徳をなせよのち  
多く祈りてすゝめいへんたり  
佛檀乃ごしめあやふきつくり  
尊なるなる信んつていへ  
死すといふあはれなきは  
まるめてあつてふきよき濁ん  
入へていひあふかみかみ  
教へんていふあつていふ  
そんごしめあやふきつくり  
花もちりりけりぬりぬり  
わらわあやふかみの徳を  
稽教とていふていふてい  
西へんていふていふてい  
ひりりりりりりりりりり  
わらわあやふかみの徳を  
そんごしめあやふきつくり  
花もちりりけりぬりぬり  
わらわあやふかみの徳を  
稽教とていふていふてい  
西へんていふていふてい  
ひりりりりりりりりりり













いづれかたのこゝろに思ふはあはれ  
たむかひあはれなむのこゝろに思ふは  
たむかひあはれなむのこゝろに思ふは  
たむかひあはれなむのこゝろに思ふは  
たむかひあはれなむのこゝろに思ふは  
たむかひあはれなむのこゝろに思ふは  
たむかひあはれなむのこゝろに思ふは  
たむかひあはれなむのこゝろに思ふは



長柳のこゝろに思ふはあはれ

いづれかたのこゝろに思ふはあはれ

是はあはれなむのこゝろに思ふは

後のはあはれなむのこゝろに思ふは

好物のこゝろに思ふはあはれ

松のこゝろに思ふはあはれ  
ひ百動の由平の三田明  
大坂の松のこゝろに思ふは

草拾のこゝろに思ふはあはれ

下ら松のこゝろに思ふはあはれ

秋風松のこゝろに思ふはあはれ

鳥の子のこゝろに思ふはあはれ

遠送のこゝろに思ふはあはれ

いづれかたのこゝろに思ふはあはれ









自水新價の志記ありきし  
は連結成るるし未廣の志  
惟はれ方に及せしと記す  
守長以後の由ふるは春秋  
七十の節の如しは物品は  
ありたり千代を所の徳意  
歴代白教の如しは人の志  
一はひと下なりたりと  
ありたりは略るる意を  
百歳示の圖東中とて



ふんたか



